

第6学年 音楽科 学習指導案

奈良教育大学附属小学校

教諭 磯田 由香

1. 単元名 「曲にこめられた思いを表現しよう—修学旅行で学んだ事を活かして—」

『生命の木、空へ』（林光 作詩・作曲）より 第1曲『木は空を』

2. 単元の目標

- 被爆した一本の木が長い年月をかけて力強く育っていく姿を歌詞から感じ取り、のびやかに響きのあ
る声で歌うことができる。 (知識及び技能)
- 曲想（旋律の動き、和音の変化、強弱）からそれぞれの場面にあった表現を考え、歌うことができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- “木は祈る”にこめられた平和への願いに関心を持ち、自分の平和への思いを込めながら主体的に歌う
ことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

『生命の木、空へ』は、広島と長崎で被爆した遺物・遺品を見て、林光が詩と音楽を書いた。1987年8月6日に京都で初演されている。被爆からよみがえった一本の木、溶けてよじれた数本の一升瓶、高熱に灼かれて表面がガラス質で覆われた瓦、制服・靴・学校鞆、手をつけられないまま炭化した弁当箱、爆死したカトリック信者たちの洗礼名が刻まれた墓石。カメラの目がとらえたものから語られるものごたたりを、林光は6つの曲にした。第1曲『木は空を』、第2曲『なぜ?』、第3曲『天の火』、第4曲『道の歌』、第5曲『敗戦のこども』、第6曲『あらゆるものの中に』、の組曲となっている。その中から今回は第1曲『木は空を』に取り組む。

◆第1曲『木は空を』◆

【歌詩】 ※授業者が歌詩のまとまりから5つの場面に分けた。

1 木は空を指す

木は大地に根を張る
天と地をまっすぐにつなぐ
傾いた大地に生まれても あやまたず空を指す

2 木は育つ

楽しい春には のびやかに
きびしい秋には 固く つよく
その歩み 年輪となり
時をかぞえ
歴史を刻む

3 木は千年生きる

木は二千年生きる
生きてのち 伐られ 割られ 削られ
柱となり 梁となり
またあたらしく生きる

4 木は見た

天の火は人を焼き
光と雲が人を殺すのを

5 木は祈る

地の底のなげきを聴く
天へ向かって
木は祈る

①から③は、木が空に向かってまっすぐ伸びていく様子が書かれている。④の「木は見た 天の火は人を焼き 光と雲が人を殺すのを」という歌詩から、原爆について直接的な言葉は書かれていないが、木の視点に立って被爆したことが語られている。全体を通して、被爆した木がよみがえっていく様子だけが書かれているのではなく、木そのものがいつ何時も空に向かって伸びていく力強さがこの歌詞から感じ取れる。林光は“木のよみがえりに感動するより、木はどう生きるかしらべたかった”と楽譜のあとがきに書いている。どんなことがあっても、強い生命力のもと木がまっすぐと空に向かって伸びていき、何千年も生きて私たち人間を見守っているような、そんな壮大なものがたりが歌詞からも、そして音楽からも感じられる。

この『木は空を』は調号がつけられていない。(『生命の木、空へ』の他の曲も同様である。)けれど、ずっとハ長調というわけではなく、臨時記号がつけられることによって、どんどん曲調が変化していく。自由自在に曲想が変わっていくところに作曲者林光の思いが込められているように感じる。

(2) 児童観

5年から持ち上がって担任をしている。普段はとてものにぎやかなクラスで男女ともに仲良がいい。音楽の時間になると一目散に音楽室へ行く姿や、音楽室から帰ってくると教室で習った歌を歌っている姿から、高学年になっても歌ったりすることにあまり抵抗感なくとりくめている子が多いように思う。(それは専科教員ではなく、担任が教えているというのものもあるかもしれないが)音楽の授業としては、低学年、中学年の頃に担当していた子たちも半数近くいる。それもあって、子どもたちも私と音楽をすることに安心感をもってくれているのかもしれない。大きな声が出るというわけではないが、子どもたち一人ひとりが“歌いたい”という思いをもって声が出せるように励ますことを大事にしている。

6年生になるとヒロシマ修学旅行がある。1年生の時から平和学習で6年生からヒロシマの話を聞いてきているため、子どもたちの意識としても“修学旅行に行って、1～5年生に伝えるんだ”という思いが強かった。また、修学旅行に行く際には、6年生みんなで平和への願いをこめて『白い鳩』(ボヤン・バラバノフ作詞、ゲオルギー・ディミトロフ作曲、岩井照清訳詞)を歌っている。全校の前や被爆者の方の前で、一人ひとりが平和への思いをこめながら歌うことで、より歌声が盛り上がったように感じた。修学旅行から帰ってきてからは『折り鶴』(梅原司平作詞・曲)を歌った。『折り鶴』の歌詞は、被爆者の方から聞いてきたお話しと重なる部分が多く、歌詞の意味をよく分かって歌うことができた。ヒロシマ修学旅行で熱心に学んでいたこともあり、「私からあなたへ」と自分たちが全校につなげていく、そんな思いを歌声にのせて歌っているようだった。そんな子どもたちの姿から、2学期も戦争や平和への思いがのせて歌えるような教材にとりくめたらと考えていた。

そこで今回は、ヒロシマで被爆した一本の木について書かれた『木は空を』を歌うことにした。平和記念公園でアオギリの木を見た。被爆をしても、またそこから生きようとする木の強さを、子どもたちと実際に見て感じたことを覚えている。この『木は空を』は実際に被爆をした木がモチーフになっていることから、子どもたちはきっとこれまでの学びを思い出しながら、一人ひとりが思いをこめて歌っていけるのではないかと思っている。

(3) 指導観

子どもたちの感じ取ったものを大事にするために、初めて曲を聴いてみて、感じたことや思ったことなど、感想を出し、クラスで交流をする。

場面ごとに歌っていくところでは、まず1で子どもたちがどんなことを感じたかを出し合う。その際に、その感じたことを①歌詞から②調性(曲調)から③旋律の音の高さの3つに分類していく。1では、流れる伴奏から感じることや、旋律のフレーズの最後の音が伸びていることなどをとり上げながら、3拍子によって、なめらかに歌わせたい。次は1と2・3を比べて、感じたことを出させる。臨時記号が多くなっていることや、旋律の動きやリズムが変化していていることを、楽譜もたよりにしながら確かめ合い、旋律の盛り上がりを意識して歌わせたい。4では、これまでと曲調が異なることから、まずはピアノ伴奏の和音の響きに注目させる。対して5は緩やかな旋律になる。音を伸ばすところもたくさんあるので、そこから感じたことを出し合いたい。そして4と5を対比させながら、和音の響きや音符の長さに着目して、表現を考えていきたい。

最後は曲全体を通して、盛り上がりを感じたり、旋律のフレーズを意識しながら歌ったりしていく。そして改めて自分の平和への思いを考えさせる。そうして、自分の思いも歌声にのせながら歌っていききたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

公平性…被爆者の話から人々が長年どのように苦しんで生きてきたのかは学ばないと分からない。
それを自分たちが何かで伝えていく必要がある。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)

社会や平和学習で学んだ戦争の事実と実際に被害にあった人々の苦しみを知ることによって、自分たちは平和なくらしを守っていききたいという思いを歌にこめられる。

他者と協力する態度

歌うことを通して、平和への思いを伝えあっていくことで、平和のつくり手を増やしていく。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正

被爆者の話を聞くことで、自分たちが今平和に暮らせていることが分かり、その平和なくらしを守りたいという思いを次の世代へと訴えていくことが大切であることに気づく。

人権・文化を尊重する

これからも戦争をせずに平和なくらしを守っていかなくてはならないという考えをもつ。

・ 達成が期待される SDG s

16 平和・公正

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①歌詞が広島原爆の被害を受けた樹木であることを知る。 ②旋律の盛り上がりを意識して息継ぎを工夫している。 ③高音を意識して響かせて歌う技能を身に付けている。	①曲想（旋律の動き、和音の変化、強弱）を捉え、どのように歌ったらいいかを考えることができる。 ②自分の思いや意図をもって歌うことができる。	①“木は祈る”の言葉の中に、被爆した人々への思いや、平和を願っている思いに気づくことができる。 ②曲の特徴にふさわしい表現を行おうとする。

5. 単元の指導計画（全11時間）

次	学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
0	<u>ヒロシマ修学旅行で、原子爆弾が落とされたことで人々にどんな被害があったのかを知る。</u> 【被爆体験証言から】 【原爆資料館から】 【平和記念公園から】	○行く前に『白い鳩』、帰ってきてから『折り鶴』を歌うことで、平和を願い、戦争のことを伝えていきたいという思いを高めさせる。 ○平和に関する歌に関心を持たせる。 ○被爆木を見たことを歌に繋げさせる。	
1 (3)	<u>歌詞・旋律を把握する</u> ・曲を聴いた感想を書いて、交流をする。 ・少しずつ歌う。	○友だちの感想も一覧にして配布する。 自分で気づけなかった気づきに出会わせる。 ○歌詞や音程に自信のない部分はくり返し歌わせる。	ア① イ① ア②
2 (6)	<u>場面に分けて歌う</u> ・曲の雰囲気を感じたことを出し合って歌う。 ・歌詞から感じたことを出し合い、どんな意味が込められているかを考える。 ・曲の盛り上がりを意識して歌う。	○各場面でどんなことがかかかれているかを出させる。 ○自分なりの感じたことを出させる。どんな思いが込められているか、一つひとつの言葉にこだわらせる。 ○大きな声を出すために、お腹から声を出すことを意識させる。	イ① ア②③ イ② ウ① ア③ ウ②
3 (2)	<u>全体を通して歌い深めていく</u> ・自分の思いを込めて歌う。 ・自分たちの思いを歌で発表する。	○自分の思いを ○なかまの思いを知ることで、さらに平和への思いを強くさせる。	イ②ウ②

